

季
刊



KIKAN
KADENSHA
vol.05
2016/10/14

文化はまちをつくるエネルギー

企業から渋谷のタウン誌の依頼を受けて、1974年に創刊したのが「ビックリハウス」でした。まちの紹介というよりも、読者のさまざまな投稿を集めたメチャクチャなメディア。その蓄積は、渋谷に一つの若者カルチャーを築く原動力にもなっていたと思います。しかしその前に既に、新宿はサブカルチャーの発信源でした。場末の小屋や野外にもかなりの熱量があり、同時に大劇場も共存している。新宿は文化のるつぼです。この街をもっと面白くしたいという思いもあり、街のイベントをミュージアムに見立てた「新宿フィールドミュージアム」のアドバイザーを引き受けました。エリアの風土に根ざした文化を育てていきたい。その場の空気を感じながらまち歩きできる仕組みが出来ないか考えています。

最近では若者に向けた街のつくり方に偏っている気がします。若者だけで遊んだり飲食するのは戦後文化。昭和初期まで街は大人の場所でした。改めて大人世代も楽しめる街をつくりたい。色々な世代が交わる場所があってもいいですね。そこにアートや演劇、クリエイションが自然と起こる環境を作っていききたいですね。

榎本了壺 (クリエイティブ・ディレクター)

はじめての職業体験 in 花伝舎

新宿区内にある西早稲田中学校では、毎年中学2年生が地域の企業や商店などで職業体験をしています。今年は、花伝舎ではじめて2名の生徒さんを受け入れました。

職業体験の場に花伝舎を希望したのは、バレエ男子の榎本壮八郎さんと、音楽やスポーツが好きな加渡里菜子さん。9月5日～7日の3日間、受付に立ちました。事前に授業でマナー講習を受けていても、いざ受付で見知らぬ人を前にすると、「緊張してうまくしゃべれなかった」と悔しい表情。敬語に慣れていなくて、言葉が出てこなかったようです。ただ、3日目にもなると、受付スタッフの手が足りないところを自然と補えるように。備品の補充や室内の点検、補修などにもあたってくれて、体操着姿で動き回る様子が微笑みを誘いました。

花伝舎の教室や体育館は、外観は学校でも中身は稽古のためのプロ仕様。せっかくなので職業体験の一環として、オペラ、バレエ、演劇などそれぞれの稽古も見学させていただきました。二人ともはじめて目の当りにしたオペラの厳しいレッスンにびっくり! 「歌いながら演技をするのは難しそう。言葉も英語じゃないし、やるのが多くてすごい」と、プロたちが学び習得する姿に刺激を受けたようです。舞台セットが入ってすっかり様子の変わった体育館では、舞台監督さんに本番に向けての準備について教わり、熱心にメモ。「バレエをやっているけど、セットづくりの過程は見たことがなくて面白かった」と興奮を隠せません。

いろんな人が行き交う花伝舎だからこそ、「いろんな仕事を知ることができてよかった。仕事は難しくて大変なイメージだったけど、楽しそう! やりがいがあるのがいい」と、普段同世代の友達と過ごしている学校から、一步外へ出た世界を体験できたことが、とても刺激になったようです。皆様、ご協力ありがとうございました。



2016年9月5日～7日
花伝舎で職業体験をした
西早稲田中学校2年生の
榎本壮八郎くん
加渡里菜子さん



青年劇場「郡上の立百姓」
の舞台セットが
入った体育館を見学

舞台監督の仕事について質問



稽古場を補修

みんなの声で文化省をつくろう!

～文化芸術の力をすべての人々に、国づくりに生かすために

近代的な建築やファッションから食文化に至るまで、世界中の多種多様な文化が楽しめる現代の日本。一方で生活のなかには、各地の祭りや四季折々の年中行事を楽しみ、いつくむ心が生き続けています。古来、日本の文化は、海外との文化交流とともにいくつかの転機がありました。奈良時代の仏教伝来、明治期の欧米諸国からの文化移入がその最たるものですが、その都度、日本的な美意識を活かして、文化の受容と創造が繰り返されてきました。今日の私たちの生活を彩り、経済活動を活発にし、また外国との架け橋ともなる多様な「文化」は、現在の政府ではどのように扱われているのでしょうか？

日本では、国政に関する意思決定は、内閣の各国务大臣からなる閣議で行われます。閣議に出席する文部科学大臣の所管は、教育を軸に科学技術、スポーツ、文化におよびます。文化に関しては、文部科学省の外局である文化庁が行政事務を担っている構造です。文化庁は1968年に当時の文部省の外局として設置され、およそ50年にわたり教育行政の軒下に居を構えています。一方で、幅広い「文化」は他省庁でも扱われてきています。外交、国際交流の点からは「外務省」、エンターテインメント・ビジネスの点からは「経済産業省」、歴史的な建造物や劇場などを観光資源とする点からは「観光庁」など。国として文化を軸とした政策を効果的に展開していくためには、これらを統括する視点も必要ではないでしょうか？ 内閣に文化大臣が配され、文化行政を専門とする文化省ができることは、日本の未来にとって大きな一歩となります。ぜひ、みんなの声で文化省をつくりましょう！

→ウェブサイトから賛同表明 <http://ac-forum.jp/to2020>

「文化芸術の力をすべての人々に」宣言と公演

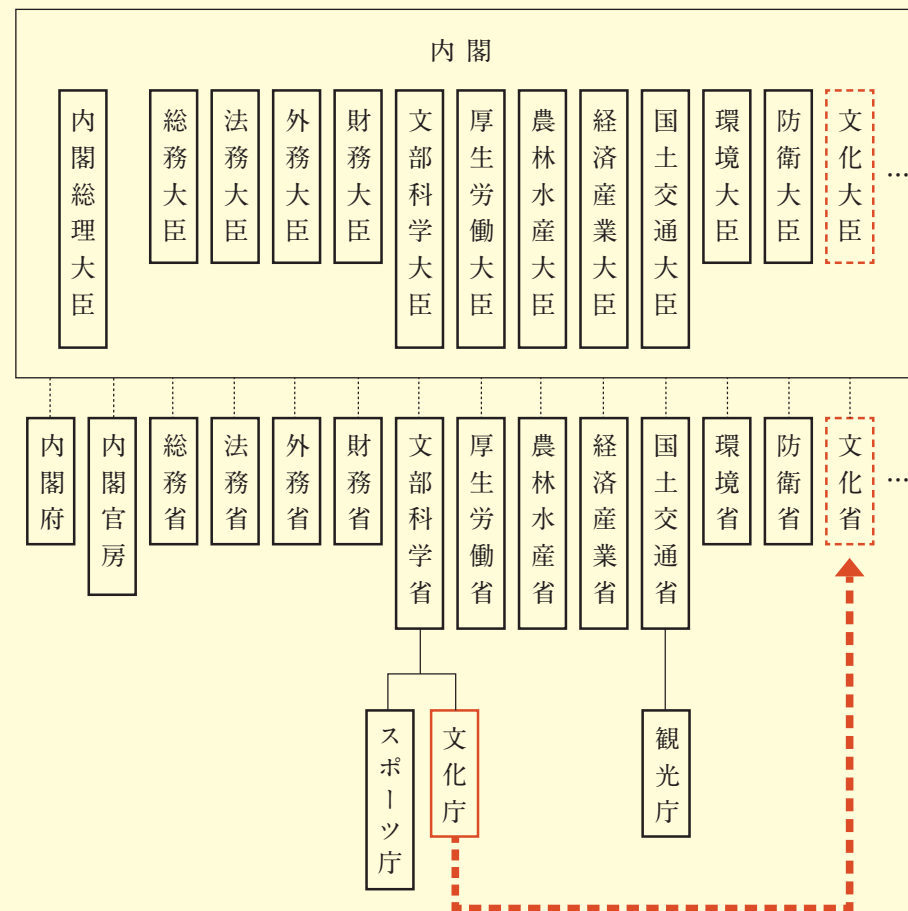
日時：11月12日(土) 18:00-21:00

会場：新国立劇場 中劇場 チケット：1,500円(全席指定)

※同日14:00-19:00、ホワイエにて

「アーティストによる新作オークション」を行います。(入場無料)

国づくりに文化を生かすために、 文化省をつくろう



TO 2020



五輪の年には文化省

文部科学省に属する「文化庁」から
文化に関する司令塔として
新たな「文化省」へ

※この図はイメージです

今秋から、 文化プログラムが スタート

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、この秋から文化プログラムがスタートします。芸団協の主催事業も、東京2020参画プログラムとして公式認証を得て実施されます。ぜひお運びください。

沖縄、東京、新潟で生まれた伝統芸能の共演 ～神社仏閣“パワースポット”から生まれた芸能の力



古くから多様な芸能が育まれてきた神社仏閣等で、伝統芸能の魅力を再発見! 新潟と沖縄の舞踊、そして三曲(箏・三味線・尺八の音楽)、それぞれの土地に縁のある芸能が一堂に会する史上初の舞台。お気軽にご来場ください。

12/4(日)[沖縄県那覇市]波上宮(神社)無料

12/17(土)[東京都墨田区]回向院(寺院)無料

12/18(日)[新潟県新潟市]りゅーとびあ能楽堂(能楽堂)

有料(※予価5,000円)※詳細は、順次ウェブサイトでご案内します。

<http://www.geidankyo.or.jp>

(文化庁「神社・仏閣・能楽堂などを活用した実演芸術拠点の形成プロジェクト」)

[花伝舎カレンダー] 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

11/23(水・祝)

「子ども芸能体験ひろば in 新宿」

三味線、狂言、落語、和妻、日本舞踊の5つの伝統芸能から好きなジャンルを1つ選んで体験できます。要申込、応募者多数の場合は抽選(11/13締切)。

<http://www.geidankyo.or.jp/12kaden>

「新宿区 秋の文化体験プログラム」

11/16(水) はじめての篠笛

11/25(金) はじめてのタップダンス

新宿区が提供する、本格的な文化芸術体験。対象18歳以上、参加費100円、要申込(10/28締切)。問合せ:新宿区文化観光産業部文化観光課

Tel:03-5273-4069

ご支援のお願い

より良い稽古環境と子どもたちに良質な芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。<http://geidankyo.or.jp/support/>

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

● 東京オペランティ事務所
〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペランティタワー11階
Tel:03-5353-6600 Fax:03-5353-6614

● 芸能花伝舎事務所
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30
Tel:03-5909-3060 Fax:03-5909-3061